

広島県の新型コロナウイルス感染症の状況にかかる評価と提言

【感染状況】

- 県内の感染者数は、昨年 12 月の 1 ヶ月で 46 人と低水準で推移していたが、12 月末より増加傾向となり、県全体の直近 1 週間の新規報告者数（人口 10 万対）は、1 月 5 日時点で 14.0 人と過去に類を見ない急増傾向にある。
- 増加の要因としては、会食のクラスター、医療機関のクラスターのほか、年末年始の人の移動と大人数による会食が影響していると考えられる。
- 年代別では、30 代以下が 6 割以上を占め、感染経路判明例のうち、飲食を起因と推定されるものが 12 月 22 日から 1 月 4 日までの 2 週間で 81 人と、5 割近くを占めている。
- 県内のオミクロン株は、1 月 4 日時点で西部地域を中心に 23 例確認されている。変異株スクリーニング検査においても、オミクロン株が疑われる L452R 陰性の割合が約 8 割となっており、昨年末に県内 1 例目が確認されて以降、市中でデルタ株からオミクロン株への置き換わりが急速に進んでいると考えられ、今後さらに置き換わりが進むことで、全県への急拡大につながる恐れがある。
- 感染者に占めるワクチン接種者の割合は、6 割を超えており、オミクロン株への置き換わりの影響や、接種後の時間経過等の影響から、発症予防効果は低下していることが示唆される。オミクロン株感染例において、重症例は現時点では確認されていないが、今後感染者が高齢者等重症化リスクの高い層へ拡大することで重症例の発生・拡大の懸念がある。

【レベル分類】

- 国の分科会提言におけるレベル分類に基づく現在の感染状況等の評価は、県内は市中感染による新規陽性者数の急増傾向が見られ、オミクロン株の感染伝播スピードを考慮すると、近々にも現在の保健・医療提供体制では受け止めきれない状況となることが想定される。
- 米国や英国では、医療従事者にも感染が拡大し、医療提供体制の維持が困難になる状況が見られる。医療への影響は、病床ひっ迫だけでなく、広範囲に及ぶ恐れがあることから、感染レベルは「レベル 2」ではあるものの、「レベル 3」に近い状態にあると認識する必要がある。

【今後の対応について】

- オミクロン株は、デルタ株に比較して伝播性の高さや、潜伏期間が短いこと、二次感染リスクや再感染リスクが高いことが指摘されている。すでに県内の市中感染は、これまで経験したことのない速さで急拡大していると考える必要があり、この状況を鎮めるためには行動制限を含めた強い対策を直ちに打つ必要がある。
- 県内の感染例は、飲食を起因とする割合が高く、さらに、人数が多い、普段会わない人がいるといったケースで感染リスクが高まることから、会食は少人数とし、普段会わない人との会食は避け、少しでも体調が悪い場合は休み、積極的に受診や検査を行うなど、県民の警戒レベルを上げていく必要がある。
- また、アルコールが入ることで、大声になったり感染対策がおろそかになること、新年会や成人式などのイベントの時期に重なることから、酒類の提供制限についても考慮する必要がある。
- さらに、オミクロン株に対して、基本的な感染防止対策を講じることで感染の拡大防止に繋がることから、学校や職域等での大規模なクラスターの発生を防止するためにも、マスクの正しい着用、手指衛生、ゼロ密や換気といった基本的な感染対策を徹底することが重要である。
- ワクチン接種は、重症化予防の観点からも未接種者への接種勧奨とともに、高齢者等への3回目接種についても、できる限り前倒して着実に実施していく必要がある。
- 医療提供体制については、今後の感染者の急拡大に備え、在宅医療の更なる促進とともに、病床を拡げ、入院対応が必要な患者は積極的に入院治療を行うことによって重症化を防ぐ必要がある。また、指定医療機関、協力病院を含む多くの医療機関において陽性判定後の外来患者も受け入れることを可能とし、増加するであろう軽症者についても広く治療にアクセスできる体制とすべきである。